

## 第IV章 デザイン調整の仕組み

1. デザイン調整の必要性 -----32
2. デザイン調整の仕組み -----33
3. デザイン会議の役割 -----34
4. デザイン調整の流れ -----35
5. まちづくりへの展開 -----37

都市空間デザインを実現していくために大切な3つの視点を示します。

## ① デザインの 共有

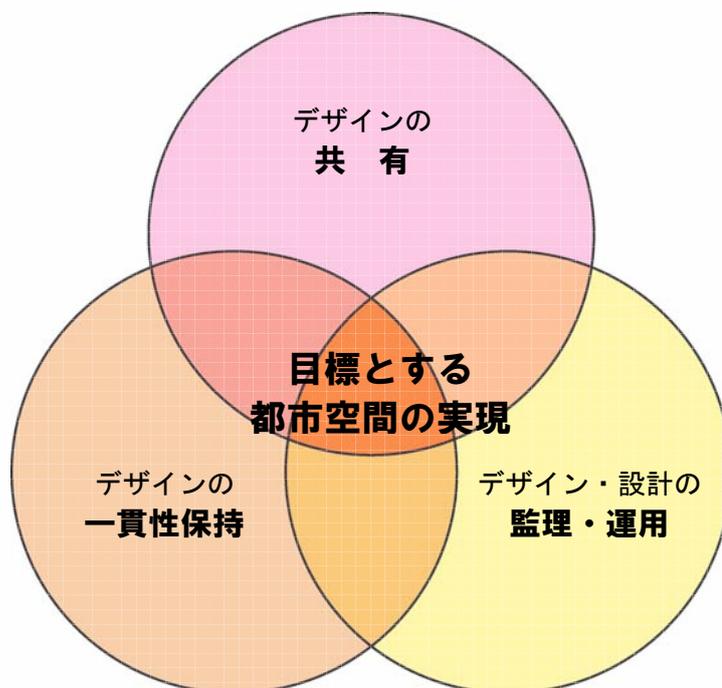
多くの人が行き交い、交流する県都熊本の玄関口として良好な街並みを形成し、また快適な空間を創造するためには、道路・河川・公園といった公共施設と、これらに隣接する建築物が、将来像を理解し、まちづくりに協力していく必要があります。

## ② デザインの 一貫性保持

本地域は事業が長期間におよぶことから、当初設定したまちづくりやデザインの方針について、一貫性を保持していく必要があります。

## ③ デザイン・設計の 監理・運用

個々の事業実施段階において、地域全体としてのデザインのまとめり、一貫性を保持し続けるよう、その時々でのデザイン・設計の監理（監督・管理）及び運用をしっかりと行っていくことが必要です。



まちづくりの目標を達成するためには、デザイン検討や調整の流れがスムーズに行われることが大切です。そこで、本地域では以下の仕組みで取り組みます。

### システムとしての デザイン調整

公共空間、民有空間に関わらず、住民・民間事業者・行政が将来像や情報を共有し、都市空間デザインを実現するため、より良い都市空間づくりの機運を醸成し、検討や調整が円滑に行われるシステムを構築します。

### 体制としての デザイン会議

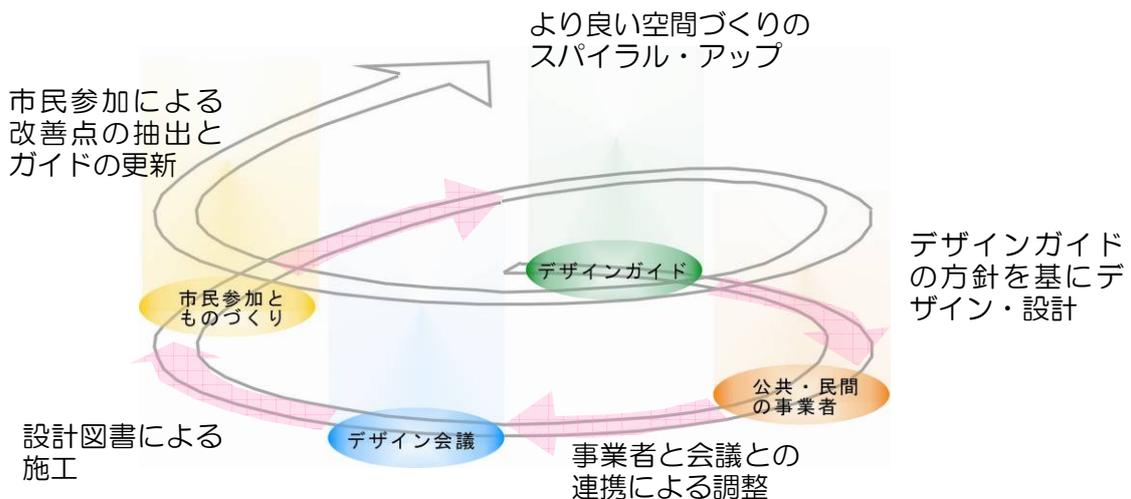
本地域のデザイン調整は、熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議を要とし、都市空間の「デザインの共有、一貫性の保持、デザインの監理・運用」を図るとともに、まちづくりへの機運醸成や、魅力的な空間に関する情報の収集・発信を行います。

熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議は、協議・調整、広報活動等を行う「本会議」、「ワーキングシステム」と、設計・維持管理の方針書である「デザインガイド」の3つから構成されます。

### 方針書としての デザインガイド

本ガイドは、基盤整備や建築物のデザイン設計から、完成後の維持管理等まで、本地域の都市空間デザインを実現していくにあたり、それぞれの段階で携わる多くの人が考え方を共有するための方針書および参考資料となります。

また、地域との一体的な取り組みを行うなかで、本ガイドに記された内容が「地域全体の約束事」に成長することを期待します。



〈 デザインガイド スパイラルアップ概念図 〉

デザイン調整の仕組みのなかで“要”となる「都市空間デザイン会議」では、次のような取り組みを行っていきます。

① デザインの協議・調整

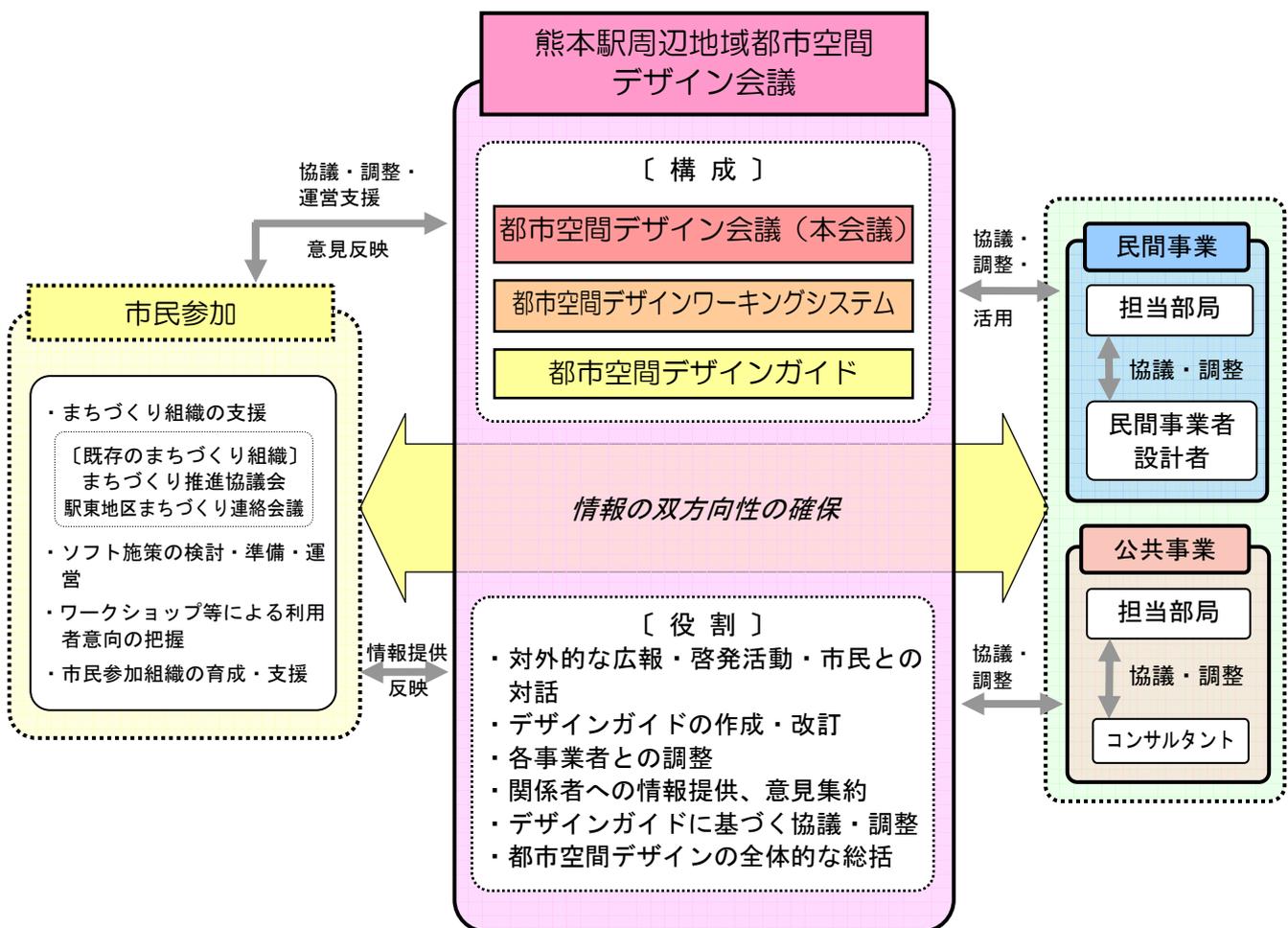
公共空間、民有空間を問わず、都市空間デザイン上、大切な要素について、本会議、ワーキングシステムが役割分担を行いながら、本ガイドに記された内容に基づき事業者と協議・調整を行っていきます。

② デザインの普及・啓発

地域の方々や市民、事業者が、デザインガイドの内容について理解を深め、様々なまちづくり活動へと発展していけるよう、広報・啓発、対話のための活動を積極的に展開します。

また、まちづくりに関わる人々が、情報を共有できるよう、様々な機会や仕組みを活用して情報収集・発信を行います。

このような取り組みにより、地域のまちづくりに関わる多くの方々にデザイン会議の必要性を理解していただき、より地域との連携を深めるデザイン会議へと発展していきます。

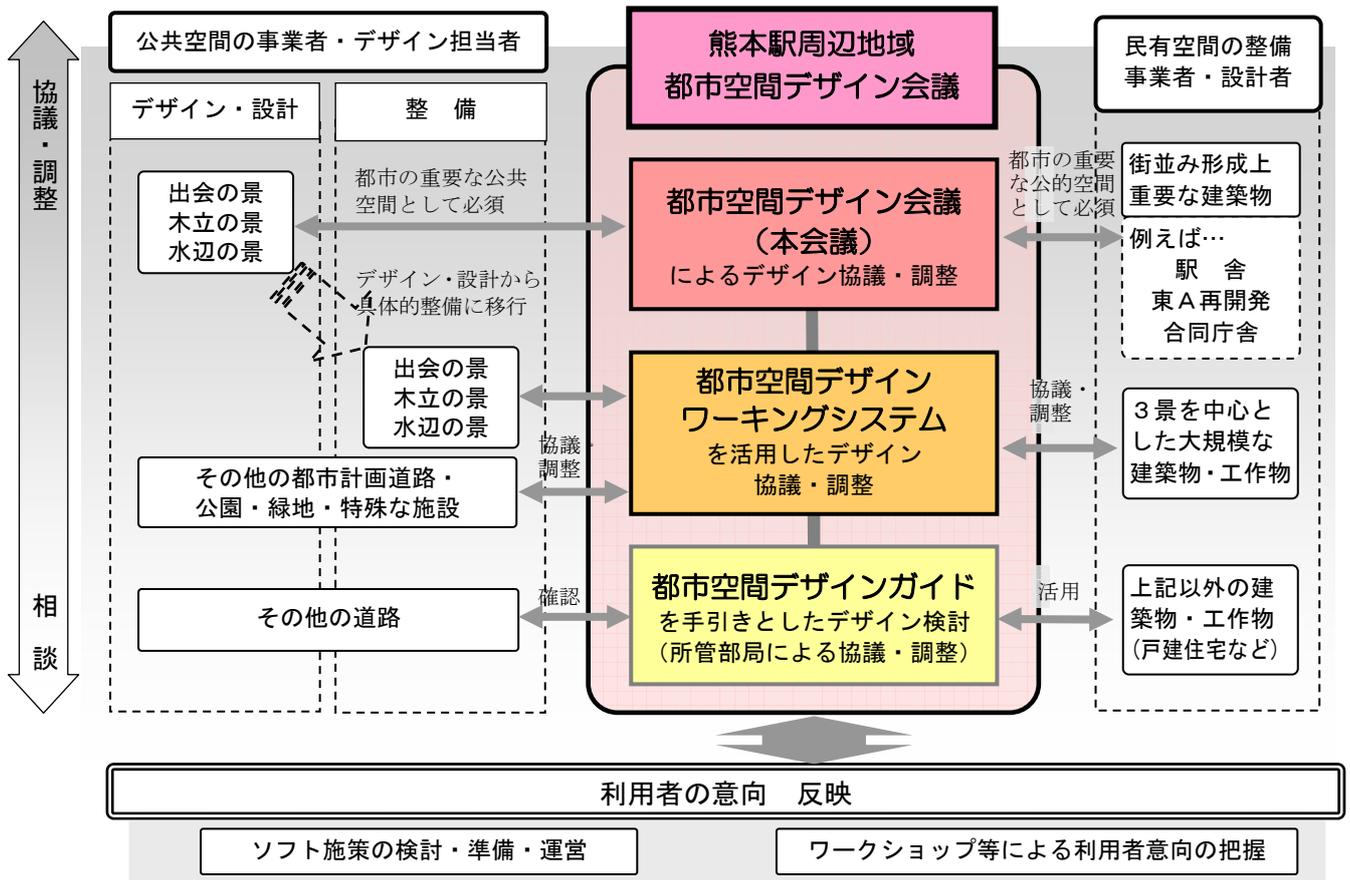


〈 デザイン調整の体制とデザイン会議の役割 仕組み図 〉

デザイン調整は、デザイン会議毎、次のような役割分担で調整を行っていきます。

(1) 対象施設毎の調整の考え方

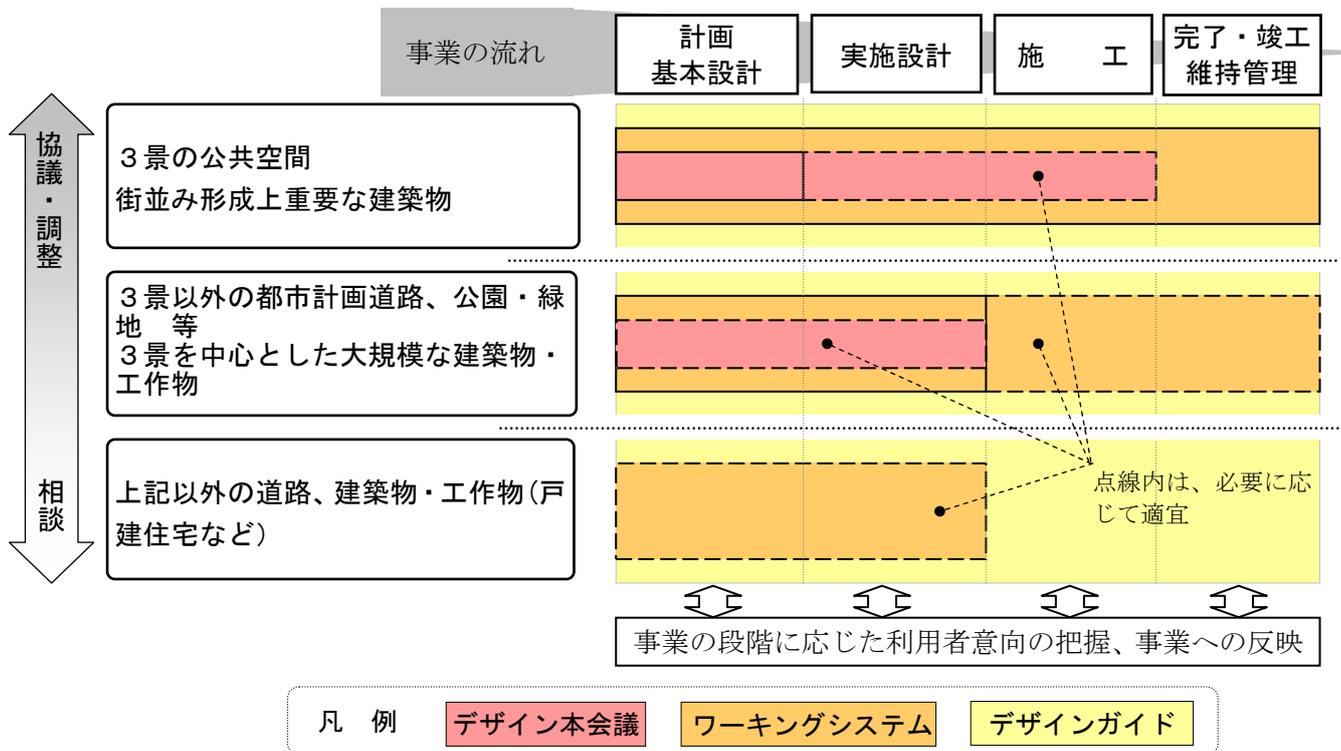
- ・ 本地域の空間構成上重要な3つの景の公共空間、駅舎、東A地区再開発、そして合同庁舎といった街並み形成上重要な施設は、「都市空間デザイン会議（本会議）」で調整を行うことを基本とします。
- ・ 3つの景に含まれない都市計画道路、公園・緑地等の公共空間や、都市空間デザイン会議（本会議）で対象とならない大規模な建築物等は、「デザインワーキングシステム」で調整を行うこととしを基本とします。なお、私有空間の建築物は、デザインワーキングシステムが、調整が必要であると判断した場合、事業者と調整を行っていきます。
- ・ 戸建住宅や生活道路など上記に該当しない施設は、「デザインガイド」を活用し、事業者・設計者がデザイン検討を行います。



〈 デザイン協議・調整の場と対象施設の関係図 〉

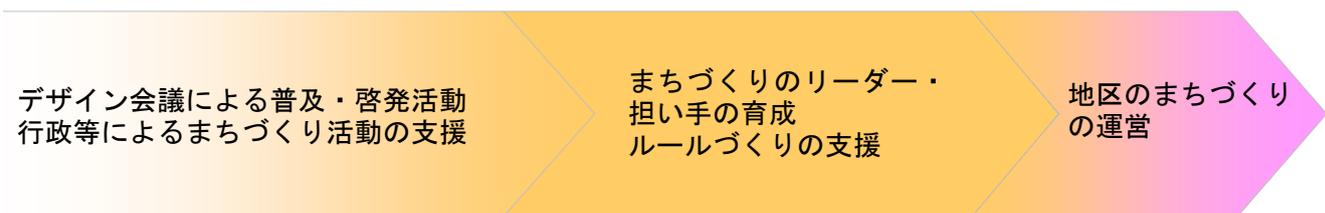
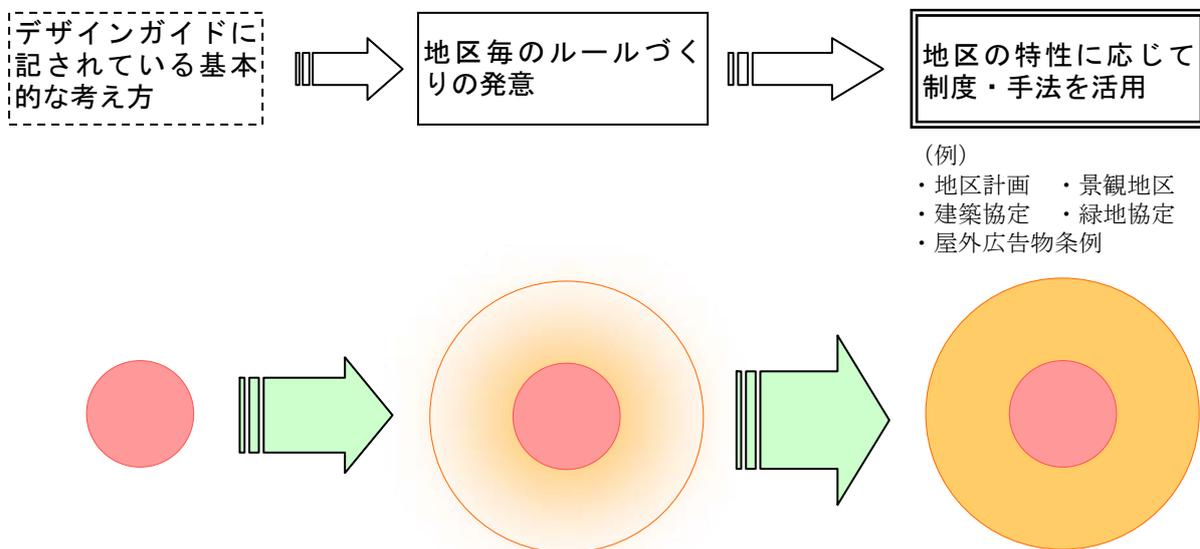
## (2) 事業の流れと調整の考え方

- デザインガイドに記された都市空間デザインを実現していくためには、計画段階から調整を行うこと、事業の進捗に応じてデザイン調整を行うことが重要です。
- 本地域では、下記の空間や施設毎に事業の流れに応じて、調整の場となる都市空間デザイン会議（本会議）やデザインワーキングシステムと調整を行っていきます。
  - ・対象施設によっては、都市空間デザイン会議（本会議）やワーキングシステムの判断により、事業の進捗段階に応じた調整を柔軟に行っていきます（下図破線部分）。
  - ・都市空間デザイン会議（本会議）とワーキングシステムの双方が調整の場となっている場合は、各事業の段階毎に、ワーキングシステムでの調整を行った後、都市空間デザイン会議（本会議）と調整を行います。
- なお、デザイン調整の場では、設計者や事業者がデザインの考え方を説明するとともに、意見交換をしながら調整を行います。



〈 事業の流れとデザイン協議・調整の基本的な関係図 〉

デザインガイドに記された考え方を、地域の発意によるまちづくりのルールに発展していくよう、地域活動の支援を行っていきます。



- ・デザインガイドの考え方を地域の方々と共有し、機運が高まる過程で、地域の方々の発意によるルールづくりを進めます。
- ・そしてルールの内容や地区の特性を踏まえて、各種制度・手法を活用していきます。
- ・デザイン会議や行政は、デザインガイドの普及・啓発や、地域の様々なまちづくり活動を支援していきます。

## (策定経緯)

- 平成17年 9月20日 第1回熊本駅周辺地域都市空間デザイン専門家準備会議  
 平成17年11月29日 第2回熊本駅周辺地域都市空間デザイン専門家準備会議  
 平成18年 1月30日 第3回熊本駅周辺地域都市空間デザイン専門家準備会議  
 平成18年 3月17日 第4回熊本駅周辺地域都市空間デザイン専門家準備会議  
 平成18年 4月28日 熊本駅周辺地域デザイン合同専門家準備会議 (第5回)  
 平成18年 6月28日 第6回熊本駅周辺地域都市空間デザイン専門家準備会議  
 平成18年10月27日 第1回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議  
 平成19年 1月25日 第2回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議  
 平成19年 3月29日 第3回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議  
 平成19年 6月11日 熊本県知事・熊本市長へガイド作成報告

## (熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議委員名簿)

- 磯田 節子 (八代工業高等専門学校土木建築工学科准教授)  
 川内 美彦 (一級建築士事務所アクセスプロジェクト主宰)  
 (座長) 岸井 隆幸 (日本大学理工学部教授)  
 小林 一郎 (熊本大学大学院自然科学研究科教授)  
 田中 智之 (熊本大学大学院自然科学研究科准教授)  
 (副座長) 田中 直人 (摂南大学工学部建築学科教授)  
 原田 和典 (崇城大学芸術学部デザイン学科講師)  
 星野 裕司 (熊本大学大学院自然科学研究科准教授)  
 両角 光男 (熊本大学大学院自然科学研究科教授)  
 (副座長) 渡辺 千賀恵 (九州東海大学工学部都市工学科教授)

※50音順

【お問い合わせ先】 > 熊本県新幹線・熊本駅周辺整備事務所  
 TEL : 096-323-8200 FAX : 096-323-8201 Email : kumamotoekiji@pref.kumamoto.lg.jp  
 > 熊本市都市建設局熊本駅周辺整備事務所  
 TEL : 096-323-8177 FAX : 096-323-8052 Email : ekishuhenseibi@city.kumamoto.lg.jp